

妊娠そうっと SOS 事業報告書

- 1 相談支援窓口の運営および付き添い支援
 - (1) 時期：毎日（24 時間 365 日対応）
 - (2) 対象：予期せぬ妊娠に悩む女性、パートナー、家族
 - (3) 内容：電話・メール・SNS による相談、面会相談、関係機関への付き添い
- 2 相談支援体制の強化
 - (1) 時期：2020 年 10 月～2022 年 3 月（四半世紀ごとに開催、合計 3 回）
 - (2) 場所：甲斐市島上条 乳児院ひまわり
 - (3) 対象：児童相談所・学校、市役所子育て支援母子保健・医療関係機関等
 - (4) 内容：地域連携会議の開催、事例共有

〈事業の実施状況〉

期間 2020 年 10 月 1 日～2022 年 3 月 31 日

	目標	現状
1 相談内容	200 件以上	312 件
(1) 相談件数：312 件		
(2) 相談実ケース数：23		
(3) 男女別：男 4、女 15 不明 4		
(4) 相談経路別件数：本人 8、パートナー 2、知人・友人 3、 地域・関係機関 8、その他 2		
(5) 相談対象者年齢： 15 歳～19 歳 4、20～25 歳 2、26 歳～29 歳 3、31 歳以上 3、 不明 11		
(6) 相談手段別相談支援対応のべ件数：面談 3 訪問 8 電話 27 メール 38 ライン 233 関係機関へ紹介 1 その他 2		
(7) 終結ケース数：簡易な相談 5、他部署に係わる 7、出産 2、中絶 1、不明 8		
(8) 進行中： 0		

2 事業内容

- (1) 相談支援事業：専門相談・同行支援・事例検討会・研修会
- (2) 地域連携事業：児童相談所・学校・市町村・地域包括支援センターなど
ケースが関係する機関とは連絡を取り合い関係調整している。
- (3) 普及啓発活動：リーフレット、チラシ、カードの作成・配布と設置依頼について
 - ①県下 27 市町村すべてに訪問し、事業の説明とチラシ設置依頼をした。
 - ②産婦人科医院・病院、図書館、大型商業施設、ドラッグストア、コン

ビニに訪問し、チラシ2種類(A4 10枚・見開き 20枚)30枚・パウチング1枚を設置してもらうよう依頼した。ボランティアボード継続中(150か所)

③中・高等学校・支援学校については、保健室にカードを置き、養護教諭が管理してくれることになった。カード30枚とカード入れを1セットとして150セットを依頼した。(中・高・支援学校150校全て)

3 相談体制 (全員女性)

統括管理者(児童相談所所長経験者)・コーディネーター(看護師)・専門相談員として社会福祉士(非常勤)、公認心理師(非常勤)、看護師(乳児院ひまわり兼務)を配置し、携帯電話、メール、LINEによる相談体制を整備・強化した。

対応時間：電話 月～金 8:30～23:00(祝日・休日・年末年始は除く)

メール・LINEは365日 24時間対応(返事は少し遅くなる場合もある)

4 活動の状況

(1) 広報活動

4～5月は関係機関(県庁・27市町村・産婦人科医院・病院等)へ「妊娠そうっとSOS山梨」の紹介と挨拶状を郵送した。前年度からのケースのアフターケアなどを行いながら広報活動を行った。

7月から相談も入り始め、コンビニ等への戸別訪問を行い広報活動を強化した。9月から県下全27市町村へ事業の説明やチラシ設置のお願いに回った。

山梨市で行われた県教職員研修会や韮崎市で行われた助産師のための研修会等において、「妊娠そうっとSOS山梨」の紹介とチラシの配布しPRを行った。

11月には山梨県の後援名義使用承認を受け、チラシ等に「後援：山梨県」を入れることができた。11月は「コンビニのチラシを見た」という相談が増え、広報活動の効果が確認できた。

(2) 地域連携事業

市町村の保健師や病院の患者相談室などから、問い合わせや相談・紹介などが増えた。留学生のケースは引き続き大学の担当職員を軸に、地域の保健師と連携を図りながら、SOSとしてベッド、ラック、バギーなどの物品の貸し出し支援を行った。

(3) 担当者会議：月2回開催(第1、3月曜日 10:00～12:00)

参加者：SV(理事長)、統括責任者、看護師(コーディネーター)、公認臨床心理師、社会福祉士

内容：定例会議、受理会議、ケース会議、研修会等の開催、職員間の報告・連絡等情報共有を行っている。

(4) 緊急受理会議・緊急協議の開催

緊急性のある事例については、Zoom を使いタイムリーに会議を開き方針を決めることができた。

(5) Q&A を作成

相談にスムーズに応えられるよう「妊娠そうと SOS 山梨 Q&A 2021 版」を作成し、誰が受けても同じように応えられるようにした。

(6) 研 修：①定例会議の中で研修会を 30 分~1 時間行った。(新聞や本で抄読会等)

② 1/31(月)14:00~15:30 SOS 妊娠葛藤相談職員研修会開催

「支援に必要なコミュニケーション的な関わり方」

講師：杉江健二先生（臨床心理士・名古屋青少年養育支援センター陽氣会代表理事）

相談事業、電話・面接で相談を受ける場合の知識、技術、態度、話し方の留意点について。

相談事業に関しての態度、考え方等学ぶことができ、大変好評だった。

5 振り返り、課題、今後の取り組み

(1) 振り返り

妊娠そうと SOS 山梨の事業を『必要な人に知らせる』ために、どのような方法が効果的かと考え、試行錯誤で広報活動を行った。件数は少ないがひとつひとつのケースに丁寧にかかわることができた。面談を通じて、相談者のエンパワメントをサポートし解決したケースもあった。広報活動が進むといたずら等が増えてくることを実感した。

市町村の反応は良く、「妊娠 SOS の様な事業を待っていた」「相談者に対してどこに繋がたらよいか迷っていた」等 SOS 事業に大変興味を持ち、担当保健師だけでなく複数の助産師、保健師が参加され、質問も多く 30 分から 1 時間の話し合いができた。訪問後の問い合わせ、相談、紹介につながった。

(2) 課題と今後の取り組み

① 効果的な広報活動を工夫し、SOS を必要とする人に届くようにする。

・コンビニ・ドラッグストア・大型商業施設・図書館等チラシ設置の継続依頼

コンビニ再訪問(回っていない店の訪問・設置チラシの補充等計画的に行う)

・SNS 環境利用し、若者が相談しやすい環境を整え、若年者の相談を増やす。

②相談者の相談内容を的確に把握して対応する。(受けてのスキルアップ)

・事例検証、ロールプレイ等を行い相談対応の技術の向上を図る

③地域連携の強化をはかる。(市役所・学校・児相)

- ・地域に出向き、顔のつながった関係作りを計画的に行う。

(各市町村子育て支援課・学校・児相・病院・産婦人科医院等)

④緊急避妊薬を必要としている相談者が経済的困窮者であった場合の支援の方法について

- ・SOS としての経済的支援（貸付）等についてどのように対応していったらよいか今後検討をしていく。